

LAIB 4000

2025年3月4日

ジョージ・アビゲイル

久美子先生

クレムソン大学Office of Global Engagementでのインターンシップ体験

2024年春学期、私はクレムソン大学のOffice of Global Engagementでインターンを行った。期間は1月から5月までで、合計160時間働いた。最初の1カ月ほどはリモートワーク中心で、週に1回オフィスに行っていたが、3月に日本への留学が始まってからは完全にリモートとなった。このレポートでは、インターンシップ経験を通して学んだことや感じた課題についてまとめたいと思う。

私がインターンを行ったのは、クレムソン大学のOffice of Global Engagementである。このオフィスは、教育サービスに関わる部署で、学生や教職員に向けて国際交流に関するサポートを行っている。留学プログラムのサポートや、海外から来た研究者への支援、国際パートナーシップの推進が主な業務である。クレムソン大学は1889年に創立され、サウスカロライナ州に位置している。学生数は約26,000人で、国際交流活動も活発だ。大学全体の年間予算はおよそ15億ドルあり、その一部が国際プログラムに使われている。オフィス内には約20人が勤務し、様々なプロジェクトを担当している。

私は「リサーチとストーリーテリング・インターン」として、クレムソン大学と日本のつながりを紹介するデジタルマガジンを作成する仕事を担当した。具体的には、クレムソン大学と日本企業との協力関係や、JETプログラムに参加した卒業生について調べ、インタビューを行ったり、その内容を記事としてまとめたりした。また、過去の写真や資料を大学のアーカイブから探し、文章に合わせて写真を選ぶ作業も行った。さらに、日本への留学プログラムに関する紹介

文も作成した。仕事は基本的に週10～15時間で、アメリカ滞在中は週1回オフィスに行ってメンターと直接会い、その他は自宅からリモートで進めた。日本に渡ってからは完全にリモートになり、ミーティングも全てオンラインとなった。もう一つの重要な業務は、クレムソン大学のLanguage and International Business (LAIB) 専攻の卒業生へのインタビューだった。これを通じて、国際ビジネスについて多くを学ぶことができた。彼らのキャリアパスや就職活動の経験を聞くことで、特に日本での仕事探しや職場環境の違いについて理解が深まった。例えば、2018年に卒業し、日本のTD SYNEXで働いた経験を持つSam Green氏にインタビューした際、日本企業はスキルよりも企業文化に適応できるかを重視すること、また人脈が就職活動で重要な役割を果たすことを学んだ。彼は、ネットワーキングを通じて仕事を見つけたことや、日系企業の面接では性格や考え方を評価される傾向があることを語っていた。さらに、入社後の研修が必ずしも実務に直結しないこと、職場の人間関係や環境が仕事の満足度に大きく影響することなども知ることができた。こうした話を通じて、日本での就職活動や働き方についての実態を具体的に学ぶことができ、国際ビジネスのキャリア形成には柔軟性と適応力が求められることを実感した。

リモートワークが中心になってから、特に時差の問題が大きな課題となった。アメリカと日本では昼夜が逆であるため、ミーティングの時間を調整するのが難しかった。メンターとのミーティングだけでなく、インタビューを行うクレムソン大学の卒業生や関係者とのスケジュール調整も苦労した。特に、インタビュー相手の中には日本在住の人もいれば、アメリカに帰っている人もいて、お互いに無理のない時間を見つけるのは大変だった。この問題を解決するため、インタビューやミーティングの日程は早めに決定し、相手の希望時間を優先するよう努めた。また、時差の影響でリアルタイムのコミュニケーションが難しい時は、メールやメッセージで細かく進捗を報告し、できるだけスムーズに作業が進むよう工夫した。

もう一つ大きな課題は、インタビュー時のコミュニケーションスタイルの違いだった。アメリカ人相手のインタビューではストレートな質問でも問題ないことが多いが、日本人の教職員や

卒業生の場合、直接的な質問だと答えにくいことがあった。私はその点を意識し、質問の仕方を「もし差し支えなければ」「よろしければ教えていただけますか」というように丁寧で柔らかい表現に変えた。また、相手が話し終わるまで焦らず待つことも意識し、沈黙の時間があっても無理に話を進めずに、相手が答えやすい雰囲気を作るように努めた。

さらに、リモートワークならではの課題も感じた。対面では表情や声のトーンから相手の気持ちを読み取れるが、オンラインやメールではそれが難しい。そのため、誤解が生まれやすく、細かい確認や進捗報告を怠るとミスにつながることもあった。この問題を解決するために、文章をシンプルで分かりやすく書くことを意識し、進捗状況や次に行うべきことをこまめに報告するようにした。

このインターンシップを通じて、特にリサーチ力と文章作成力が向上したと感じている。限られた情報の中で、自分で必要な情報を探し出し、相手に分かりやすく伝える力が身についた。また、異文化コミュニケーション能力も向上した。相手の文化に合わせた言葉遣いや対応の仕方を考えることで、相手とより良い関係を築くことができたと感じている。さらに、リモートワークでのタスク管理力や自己管理能力も高まった。これからの仕事において、これらのスキルは必ず役に立つと思う。将来的には、今回の経験を活かして、国際ビジネスやマーケティングの分野で活躍できるよう、引き続き努力していきたい。